

# 奄美図書館だより

平成25年8月1日発行  
第266号(8月号)  
鹿児島県立奄美図書館

〒894-0016 奄美市名瀬古田町1-1 0997-52-0244

HP address: <http://www.library.pref.kagoshima.jp/amami/>

E-mail address: [ama-lib@pref.kagoshima.lg.jp](mailto:ama-lib@pref.kagoshima.lg.jp)

## 海音寺文庫の設置



東京にあった海音寺潮五郎記念館が、平成24年12月に解散したことに伴い、同財団から鹿児島県へ寄付をいただきました。

海音寺潮五郎氏の業績や史伝文学を永く後世に伝えるとともに、歴史学及び文学の振興を図ることを目的とした「海音寺文庫」を2階に設置いたしました。

海音寺潮五郎は、1901年(明治34年)に鹿児島県伊佐郡大口村(現在の伊佐市)に生まれました。國學院大學高等師範部国漢科を卒業後、中学教師を務めながら、創作活動を行いました。

1934年(昭和9年)に作家としてデビューし、歴史小説を多数発表しました。そして、1936年(昭和11年)に『天正女合戦』『武道伝来記』で、第3回直木賞を受賞しました。

「海音寺潮五郎」というペンネームは、1929(昭和4年)、懸賞小説に応募したときに初めて用いました。当時、海音寺は中学の教師をしていました。小説を書く行為に対して、世間の理解が乏しく、ペンネームを検討していたときに、夢の中の夢で、『海音寺潮五郎、海音寺潮五郎...』と呼ぶ声が聞こえ、「ああ、これでいいや。これならわかるまい」と思い、これをペンネームとしました。

1901年(明治34年) 伊佐郡大口村(現在の伊佐市)で誕生  
1907年(明治40年) 大口尋常高等小学校入学  
1913年(大正2年) 加治木中学(現在の加治木高校)入学  
1923年(大正12年) 國學院大學高等師範部入学  
1926年(大正15年) 國學院大學卒業、鹿児島県立北指宿中学校に国漢教師として赴任

1928年(昭和3年) 京都府立第二中学校に転任  
1929年(昭和4年) 『サンデー毎日』の小説募集に、海音寺潮五郎の筆名で「うたかた草紙」を投稿、当選、掲載

1936年(昭和11年) 第3回直木賞受賞  
1968年(昭和43年) 第16回菊池寛賞受賞  
1977年(昭和52年) 大口市名誉市民、芸術院賞受賞、12月逝去

## 学習サポートコーナー



夏休みの学習に役立ててもらうために、1階児童閲覧室では「夏だ!アツイぞ!」をテーマとし、夏を感じられる本や夏休みの出来事が描かれているおはなし、夏休みの自由研究のヒントになる本、青少年読書感想文全国コンクールの課題図書をおよそ150冊(木)まで展示しています。また、2階閲覧室の郷土コーナー前には「あなたの学習、サポートします」と題して、本や資料を集めて8月31日(土)まで置いています。

## 1階児童閲覧室・2階閲覧室 夏休みの学習に役立つ本を提供します!

自由研究、昆虫・貝殻・植物採集等に使える図鑑、百科事典、奄美の郷土資料、自由研究の手引き等、子どもも大人も楽しみながら本を活用してほしいと選書しました。鹿児島県立奄美図書館のホームページでは、展示している本のリストもご覧いただけます。様々なことに興味をもち、知識を広げたり、体験活動につなげたりしてほしいと思います。調べ学習等の本に関するご質問がありましたら、2階カウンターで受け付けています。ぜひ、ご利用ください。

## 奄美先人の知恵 蘇鉄

蘇鉄は、約二億年前の中生代に最も栄えていた植物で、地質学や古生物学の研究書には、中生代を「蘇鉄植物時代」ともいうと書かれています。また、奄美大島で身近にある蘇鉄は、中国南部の四川省から、沖縄、奄美、十島、三島、屋久島、種子島に自生し、南さつま市坊津、指宿市山川、南大隅町佐多、肝付町内之浦、宮崎県都井岬の南九州をその北限としています。比較的狭い範囲で、二億年という全く想像もつかない年月を生き続けてきたことを考えると、畏敬の念さえいただきます。

この蘇鉄は、奄美の暮らしに広く、深く結びついており、食料・燃料・子どもたちの遊び道具の材料など、様々なことに利用されてきました。

また、約130年前には、奄美大島から多くの蘇鉄がヨーロッパへ輸出されました。クライナー・ヨーゼフの著書『ドイツ人の見た明治の奄美』から紹介しましょう。

ドイツでは、古くから国王をはじめ、貴族の葬式に椰子の葉が使われていました。しかし、多くの人々がこの習慣の真似をし始めたために椰子の葉が足りなくなりました。そして、蘇鉄の葉が注目を浴び、中部ヨーロッパ、特にドイツで大量に売られるようになりました。ドイツの園芸家アルベルト・ワーグナーは、明治18年頃に奄美大島に渡り、蘇鉄をドイツに輸入して成功を収め、「蘇鉄ワーグナー」というあだ名で知られました。

奄美の自然と暮らしとの関係について考えることで、これまでとまた違った見方ができるかもしれません。

## お知らせ

参加してみませんか!

### あまみならでは学舎 4

- 日時 平成25年8月24日(土) 14:00~15:30
- 場所 奄美図書館 4階研修室
- 内容 演題 「島尾敏雄と奄美」  
講師 島尾敏雄顕彰会理事 越間 誠氏

### ネリヤカナヤ創作童話コンクール募集

- 応募資格 大島地区内に居住する小学生・中学生・高校生
- テーマ 自由。ただし、自作未発表のもので、他のコンクールへ応募していない作品。
- 応募締切 平成25年9月12日(木)
- 応募先 県図書館協会奄美支部 [奄美図書館内]  
ネリヤカナヤ創作童話コンクール 係  
持参または郵送でお願いします。

○応募規定等については、「第9回ネリヤカナヤ創作童話コンクール実施要項」を必ずご覧ください。実施要項は、県立奄美図書館ホームページでもご覧になることができます。

○第1回~第9回の全作品は、鹿児島県立奄美図書館でご覧いただけます。また、第1回~第9回の入賞作品はホームページでもご覧いただけます。

※ お問い合わせは、奄美図書館まで。

〒894-0016 鹿児島県奄美市名瀬古田町1-1  
TEL 0997-52-0244 FAX 0997-52-9634

# 8月の行事カレンダー



月	日	曜	行事・催し
8	3	土	おはなしさんぽ 10:30~
	5	月	休館
	7	水	おはなしの森 15:30~
	8	木	青嶽豆歌会 13:00~17:00
	9	金	育児サークル「こっちむいて」10:00~
	12	月	休館
	14	水	おはなしの森 15:30~
	17	土	読書会「島にて」10:00~12:00
	19	月	休館
	21	水	おはなしの森 15:30~
	24	土	あまみならでは学舎
	25	日	ろんど文章教室 9:00~12:00
	26	月	休館
	27	火	おはなしの森 16:00~
28	水	おはなしの森 15:30~	
9	12	木	ネリヤカナヤ創作童話コンクール募集締切
	21	土	あまみならでは学舎

## 9月の休館日予告

2日(月)・9日(月)・17日(火)・  
24日(火)・25日(水)・30日(月)



## 今月の新着図書コーナー

読書の風を  
奄美から

### 児童

**おばけにようぼう**  
内田 麟太郎 イースト・プレス  
**にゃんにゃんべんとう**  
きむら ゆういち 世界文化社  
**からすのそばやさん**  
かこ さとし 偕成社  
**三本の金の髪の毛**  
松岡 享子 のら書店  
**わたしのウナギ研究**  
海部 健三 さ・え・ら書房  
**空港で働く人たち**  
中村 正人 ペリかん社  
その他94冊

### 郷土関係

**島惑ひ**  
伊波 敏男 人文書館  
**花々**  
原田 マハ 宝島社  
その他7冊

### おすすめの本

**おばあちゃんのひみつのあくしゅ**  
ケイト・クライス 徳間書店  
遠くに住むおばあちゃんが、時々ラリーの家に遊びにやってきます。おばあちゃんは、「二人だけのひみつのあくしゅ」と言っていて、ラリーの手を3回握り、「だい・すき・よ」の意味よ」と言います。しかし、ラリーはあまりうれしくありません。  
次におばあちゃんが遊びに来たとき、嵐がやってきて、家も町も大変なことになってしまいます。その結果、いったいどんなことが起こったのでしょうか。ラリーの気持ちの変化を感じてほしい本です。

### 一般

**明日は晴れ**  
瀬戸内 寂聴 光文社  
**人はチームで磨かれる**  
齋藤 孝 日本経済新聞出版社  
**鳥・人・自然**  
樋口 広芳 東京大学出版会  
**美しい日本の伝統色**  
森村 宗冬 山川出版社  
その他182冊

### 小説・随筆

**憑き物**  
鳥飼 否宇 講談社  
**幻坂**  
有栖川 有栖 メディアファクトリー  
**え、なんでまた?**  
宮藤 官九郎 文藝春秋  
その他16冊

### 進学・ビジネス支援

**青年海外協力隊員になるには**  
横山 和子 ペリかん社  
その他3冊

### ぼくは、図書館がすき

漆原 宏 日本図書館協会  
著者は、写真家として40年近く図書館を見続けてきました。この本は、全国各地の図書館の日常を写真に収めたものです。  
「わあっ、この図書館いいな。行ってみたいな。」と思えるような、居心地のよい図書館が次々と出てきます。また、一見、図書館の何気ない風景であるのに、そこに人と人との出会い、そして、人と本との出会いを感じることができる、心の安らぎを感じる写真集です。鹿児島県内の、とある図書館もこの本の中に出てきます。